

6月議会

賛否の分かれた議案などに対する各議員の態度



○：賛成 ×：反対

※議長は
採決に加わりません。

議案などの名称	党派	政新あさひ					市民まちづくり ネット				公明党			フロンティア 旭		維新改革 ライン				
	議員名	川村 つよし	相羽 晴光	秋田 進	※伊藤 憲男	岩橋 盛文	みとべ 茂樹	大島 もえ	篠田 一彦	早川 八郎	牧野 一吉	伊藤 恵理子	片渕 卓三	丸山 幸子	武田 なおき	森 和実	若杉 たかし	花井 守行	山下 幹雄	松本 和夫
議員提案第1号 議員定数の2名削減		×	×	×	—	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○
第35号議案 市税条例改正 (軽自動車税の値上げなど)		×	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
陳情3号 …次回市議選の議員定数に関する 見解を市民に提示することを求める陳情		○	×	×	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○
陳情4号の1 憲法をいかして働く者の権利… (公共サービス・災害対策・憲法関連)		○	×	×	—	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
陳情4号の2 憲法をいかして働く者の権利… (教育関連)		○	×	×	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	○
陳情4号の3 憲法をいかして働く者の権利… (産業・労働・エネルギー関連)		○	×	×	—	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
陳情5号 新聞への軽減税率適用を目指し 政府への意見書提出を求める		×	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
陳情7号 市の歴史文書の保存と閲覧に ついての陳情		○	×	×	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○
陳情8号 「集団的自衛権の行使容認に 反対する意見書」採択に関する陳情		○	×	×	—	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○

陳情5号＝新聞の軽減税率適用を求める意見書には「新聞が民主主義を支える社会基盤であるということ、それ故に新聞への軽減税率を適用すべきである」という主張に、賛同しながらも、意見書が次の消費税増税をやむを得ないものとして追認する中身があり賛成できませんでした。

あらためて消費税について調べたのですが、日本は消費税率が5%でも消費支出の89%に消費税がかかっています。ところが、イギリスは62%、スウェーデンは58%と日本よりも3割ほど低くなっています。税収に占める消費税の割合は日本が約22%に対して、イギリスは23%、スウェーデンは22%と大差はありません。

日本の消費税は5%のときにすでに税収ではヨーロッパ並みの負担であり、生活必需品にも容赦なく課税されていた状況から言えば、収入の少ない者はむしろヨーロッパの人々よりも高額な税負担を強いられてきたのだと言えます。

陳情5号は、尾張旭市内の新聞販売店の皆さんが、何度も市議会を訪れロビー活動をされました。私も2回お話しをしたのですが、新聞の軽減税率は当然であることや、むしろゼロ税率を主張しても良いこと、ただ意見書に消費税増税を容認する記述があるため賛成できないこと、こうした活動は、税とは本来どうあるべきかという議論を進める上で歓迎であること。などをお話しをさせて頂きました。

議員定数削減の問題では残念ながら反対討論に立ったのは私だけでした。議員定数はどうあるべきと考えるか、本会議で表明するチャンスだったのに、正面から定数削減に異論を唱えることを他の議員は避けています。残念な話です。反対討論が私だけだったことに対しても、その後の山下・松本氏からは批判が見られます。「反対するなら理由を言うべき」とは、私が以前から言い続けてきたことですが、彼らは、この6月議会でも過去にも理由を言わずに反対した陳情がいくつもあります。どの口からそんな批判が出るのか首を傾げたくります。私は討論の中で、議員定数を考える際に①課題や市の提案にたいし十分議論できる人数は何人か。②多様化した住民意志を可能な限り吸い上げるためには何人必要か。③そのために、いくらの費用をかけるのか。主に3つの検討が必要であること。意見を言わない、言える状況に無い、そうした住民の意見をどのように集めるかを考えると定数増を考えても良い状況ではないか、私が議員となった15年の間に、議員定数や報酬の削減で、定数21で計算しても年間7800万円ほど議会費用を削減していること、など紹介しましたが、彼らが配布しているチラシには市民が冷静に考える材料を提供するでもなく、住民感情を煽っているだけのように見えます。

川村つよし